

図書館便り

ボストン日本語図書館ボランティア 松野早恵

今年の冬は長かったですね。春の訪れが遅かった分、暖かい日差しや穏やかな風をととても心地よく感じます。皆様いかがお過ごしですか。

4月6日の始業式に合わせて、図書館の新年度もスタートしました。春休み明け、あわただしくも活気のある、いつもの土曜日の風景です。図書館では、朝一番の貸出しや返却が一段落した頃を見計らって、昨年度注文した本の登録が進められています。生徒に人気の児童書シリーズ最新刊、先生方からのリクエスト、ボランティアのおすすめなど、数百冊が蔵書に加わりつつあります。

本棚に並ぶ新しい本の中から、子どもも大人も楽しめる3冊をご紹介します。
まずは黄色（小学校低学年）ラベル、森枝卓士著『手で食べる？』。お箸、フォーク、スプーン、ナイフ、そして自分の手。食事に使う道具を通して、世界各地の食文化やマナーを面白く、わかりやすく説明しています。



次に緑（小学校高学年）ラベル、柏葉幸子作『つづきの図書館』。図書館に並ぶ本の登場人物が現実の世界に現れ、「つづきが知りたい！」と叫びます。本を借りてくれた子どもがどんな大人になったのか、幸せに暮らしているのか、どうしても気になって紙の中から飛び出してきたのです。困ったのは、司書の桃さん。でも、登場人物の願いに応じて、人探しのお手伝いを始めます。挿画は、魅力的なエッチングで知られる山本容子さん。鮮やかな赤い表紙が目印です。

最後にピンク（中高生）ラベル、筒井康隆作『時をかける少女』。放課後の理科実験室、ラベンダーの香りがする不思議な薬品を吸い込んだ和子は、時の境界線を飛び越える能力を身につけた…。出版以来、何度も映像化されている名作。原田知世さん主演の映画（1983年）、細田守監督のアニメーション（2006年）が特に有名ですね。映画は見たけど原作未読の方（私自身がそうでした）、あるいは、本にも映画にも懐かしい思い出が詰まっている方、文庫サイズで少々見つけにくいですが、探して手に取ってみてください。

去年から今年にかけて、『時をかける少女』のほかピンクラベルの書籍が大幅に増え、本棚を増設しました。中高生対象と銘打ってはいますが、このコーナーは大人が読んでも読み応えのある作品の宝庫です。みずみずしい青春物語、心躍るファンタジー、本格的な文学を読む入り口となるような中短篇集、ユニークな切り口で日本や世界のあり方を見つめるノンフィクションなど。場所は大人向け文庫と緑ラベル文庫の間、知る人ぞ知るとおきのスポットです。皆様、ぜひお運びください。

